

「英語は意思伝達のためのツールのひとつである。これからは英語を学問として深めるのではなく、運用能力を高めていく学びに重点が置かれる。」との考えのもと、本時をデザインした。伝えるべき相手があつての英語である。児童の実態に合わせて、そのことが意識できるような手立てを打った。英単語の細かなニュアンスの違いなどに目を向け、英語でのコミュニケーションに向かう態度を育てる一助になったと考える。今後は Class Room English 使いながら児童が英語に浸れる時間をより多くしていくことが課題である。